

中川政雄 土本さんのいた家でないか。

高松孝行 ええ、道路ぶちでしょう。

山崎徹 あの方、あの辺はやはり福井でしょうね。建て方を見ると茅ぶきのふき方で一辺に判ります。

中川政雄 あの方福井だったね。

山崎徹 これは古い家だな。富山の越中だな、越前だな、これは相馬の建て方だな、二宮なんか行くとあれは福島県だという建て方。

中川政雄 いや実際先生、調べているねえ。

山崎徹 こっちにはまだ2～3回位しか来たことないんですけど、そんなところからしか見て歩かないものだから。

中川政雄 この浦幌はね、福井県・岐阜県・富山県・石川県、それから遅く福島県が入っている。この5県はもう皆団体で入っています。

山崎徹 今、中川さんが言われたように北海道に一番近いのは東北なのにどうして比較的遅いのですか。

中川政雄 海岸の漁師には東北の者がいたんですけど。

山崎徹 内陸は遅いんですか、入って来るの。

中川政雄 そうです。

山崎徹 案外四国がけっこう多いんですね。阿波の人、土佐の人、高知県とか愛媛ですね。越前衆というのは相当の縄張りをもっていますね。北海道に門徒が多いというのはそういうことなんですね。

中川政雄 活平へ広島団体が入った。

中川シズ 朝日農場も広島だったわね。

山崎徹 理由がありまして、徳島と広島。あの辺の農家は藍を作っていたんです。その藍の栽培が特に日露戦争の後になってから染料が輸入されまして、所謂る日本独自の藍という植物染料が全くダメになったんです。そういうことで、藍作物を田に転換できないものだから誘いによって、すぐ北海道に来た方が広島・徳島に多いです。ただ私、中川さんの場合にむこうでは長男の方だと聞いて、普通、家族の中で次男の方の方が多い場合もあるんです。それから明治30年代にも大洪水があって随分あの辺がひどくなつたことがあります。

(次号につづく)

## 浦幌町に於ける蝶類の分布

松 本 尚 志

(1)

日本産蝶類の分布については、かなり綿密な調査研究が進められ、新種の発見は不可能に近いと信じられてきた。事実1955年に、愛媛県松山市皿ヶ嶺で、ベニモンカラスシジミが発見されてこのかた、十数年新種発見の報告はなかった。<sup>註1</sup>

ところが1974年にいたり、2つの新種の発見が報じられ人々を驚せた。日高アポイ岳におけるヒメチャマダラセセリ、熊本県市房山のゴイシツバメシジミの発見がそれであった。そのいずれもが極めて限られた地域にのみ生息していたために今日まで発見されることがなかったのであろう。

蝶についての調査研究は、分布ばかりではなくその生態・食性・種の分化などにまで範囲が及び極めて微細なことがらにわたる研究も数多い。

とはいっても、不明な点も多く、分布についても、地域毎の研究で残された部分も多い。

浦幌町に於ける分布の調査・研究も、阿部宏氏円子紳一氏など幾人かの人々が手がけられている。私の調査記録もこれらの人々の努力に負うところが多い。近年自然環境の破壊がすすみ、そのため絶滅の危機に瀕している種も伝えられている。このような事情からも、調査とその対策がいそがれている。とりあえず、浦幌町での調査記録と近接町村の記録を比較してみたいと思う。<sup>註2</sup>

(2)

北海道における蝶類の分布は、石狩低地帯と黒松内低地帯が、その境界として知られている。たとえば、ヒメカラフトヒヨウモン（ホソバヒヨウ

モン)、カラフトヒヨウモン、エゾリンゴシジミカラフトタカネキマダラセセリは、石狩低地帯を境として、この線より東部にのみ生息している。蝶類の分布を規制するのは、なによりも気温(年平均気温)の違いであるが、同時に食草(樹)の分布でもあることは、石狩低地帯・黒松内低地帯が植物分布の上でも境界となっていることでも明らかである。<sup>註3</sup>

浦幌町に於ける蝶類の分布は、当然に石狩低地帯を境界とする北海道東部の型を示している。

次の表は、十勝管内近接町村の記録をまとめたものであるが、浦幌町産蝶類はセセリチョウ科6種、アゲハチョウ科6種、シロチョウ科8種、ジャノメチョウ科8種、タテハチョウ科26種、シジ

ミチョウ科23種(明らかに迷蝶であるウラナミシジミを含む)<sup>註4</sup>で合計77種類が確認されている。浦幌町の記録をまとめるのにあたっては、円子伸一氏の採集記録および標本、浦幌町郷土博物館に所蔵されている阿部宏氏採集の標本と、私自身の採集記録と標本を資料とした。比較してみれば、大雪山系に生息する数種類を除けば、浦幌町に分布する蝶類は十勝他町村とほんかわらないことがわかる。ただシジミチョウ類では浦幌で採集されていないものがかなりある。浦幌町の森林が植林によって針葉樹におきかえられている傾向が年々強まっているとはいえ、まだ東山・千歳などを含めミドリシジミ類の好むカシワ林が相当広く残っているので今後発見される可能性がある。

十勝管内隣接町村蝶類分布表

No.	種名	上士幌	陸別	足寄	本別	浦幌
	セセリチョウ科					
1	チャマダラセセリ	○	○	○	①	○
2	ミヤマセセリ	○	○	○	○	○
3	ギンイチモンジセセリ	○	○	○	②	
4	カラフトタカネキマダラセセリ	○	○	○	③	
5	コキマダラセセリ	○	○	○	○	○
6	コチャバネセセリ	○	○	○	○	○
7	オオチャバネセセリ	○	○	○	○	○
8	キバネセセリ	○	○	○	○	○
	アゲハチョウ科					
1	ウスバシロチョウ	○	未	○	未	○
2	ヒメウスバシロチョウ	○	○	○	○	○
3	エゾヒメギフチョウ					
4	(ナミ)アゲハ	○	○	○	○	○
5	キアゲハ	○	○	○	○	○
6	カラスアゲハ	○	○	○	○	○
7	ミヤマカラスアゲハ	○	○	○	○	○
8	オナガアゲハ	○				
	ジャノメチョウ科					
1	ヒメウラナミジャノメ	○	○	○	○	○
2	ベニヒカゲ	○	未	未	未	未
3	ジャノメチョウ	○	○	○	○	○
4	ウラジャノメ	○	○	○	○	○
5	シロオビヒメヒカゲ	○	○	○	○	○
6	クロヒカゲ	○	○	○	○	○

No.	種名	上士幌	陸別	足寄	本別	浦幌
7	ヒメキマダラヒカゲ	○	○	○	未	
8	オオヒカゲ	○	○	○	○	○
9	ヤマキマダラヒカゲ	○	○	○	○	○
10	サトキマダラヒカゲ }	○	○	○	○	○
11	クモマベニヒカゲ	○				
12	タイセツタカネヒカゲ	○				
	シロチョウ科					
1	ヒメシロチョウ	未	未	○	未	○
2	エゾヒメシロチョウ	○	○	○	○	○
3	モンキチョウ	○	○	○	○	○
4	モンシロチョウ	○	○	○	○	○
5	スジグロシロチョウ	○	○	○	未	○
6	エゾスジグロシロチョウ	○	○	○	○	○
7	ツマキチョウ	○	○	○	○	○
8	エゾシロチョウ	○	○	○	○	○
	タテハチョウ科					
1	コムラサキ	○	○	○	○	○
2	イチモンジチョウ	○	○	○	○	○
3	コミスジ	○	○	○	○	○
4	オオイチモンジ	○	○	○	④	
5	オオミスジ					
6	ミスジチョウ	○	未	○	未	○
7	フタスジチョウ	○	○	○	○	○
8	サカハチチョウ	○	○	○	○	○
9	アカマダラ	○	○	○	○	○
10	シータテハ	○	○	○	○	○
11	エルタテハ	○	○	○	○	○
12	アカタテハ	○	○	○	○	○
13	ヒメアカタテハ	○	○	○	○	○
14	キベリタテハ	○	○	○	○	○
15	クジャクチョウ	○	○	○	○	○
16	ルリタテハ	○	○	○	○	○
17	ヒメヒオドシ (コヒオドシ)	○	○	○	○	○
18	ギンボシヒョウモン	○	○	○	○	○
19	ウラギンヒョウモン	○	○	○	○	○
20	オオウラギンスジヒョウモン	○	未	○	○	○
21	ウラギンスジヒョウモン	○	○	○	○	○
22	ミドリヒョウモン	○	○	○	○	○
23	メスグロヒョウモン	○	未	○	⑤	○
24	クモガタヒョウモン	○	○	○	○	○
25	ヒョウモンチョウ (ナミヒョウモン)	○	未	○	未	○

No.	種名	上士幌	陸別	足寄	本別	浦幌
26	コヒヨウモン	○	○	○	○	○
27	カラフトヒヨウモン	○	○	○	⑥	○
28	ヒメカラフトヒヨウモン (ホソバヒ)	○	未	○	未	○
29	アサヒヒヨウモン	○				
30	オオウラギンヒヨウモン					
	シジミチョウ科					
1	アカシジミ	○	○	○	○	○
2	ムモンアカシジミ	○	○	○	○	○
3	ウラキンシジミ	○	未	未	未	⑦
4	ウラゴマダラシジミ	○	○	○	○	○
5	オナガシジミ	○	○	○	未	○
6	ミズイロオナガシジミ	○	未	○	○	○
7	ウスイロオナガシジミ	○	未	未	未	○
8	ウラミスジシジミ	○	未	未	未	○
9	ミドリシジミ	○	○	○	○	○
10	メスアカミドリシジミ	○	○	○	○	○
11	アイノミドリシジミ	○	○	○	○	○
12	オオミドリシジミ	○	○	○	○	○
13	ジョウザンミドリシジミ	○	○	○	○	○
14	エゾミドリシジミ	○	○	○	○	○
15	ハヤシミドリシジミ	未	未	未	未	○
16	ウラジロミドリシジミ	未	未	未	未	○
17	カラスシジミ	○	○	○	○	○
18	エゾリンゴシジミ	○	未	○	⑧	⑨
19	ユツバメ	○	○	○	○	○
20	トラフシジミ	○	○	○	○	○
21	ゴイシジミ					
22	ベニシジミ	○	○	○	○	○
23	ヒメシジミ	○	○	○	○	○
24	チイシダシジミ	未	○	未	未	○
25	カバイロシジミ	○	○	○	○	○
26	ジョウザンシジミ	○	○	○	○	未
27	ゴマシジミ	○	○	○	○	○
28	ルリシジミ	○	○	○	○	○
29	スギタニルシジミ	○	未	○	⑩	○
30	ツバメシジミ	○	○	○	○	○
31	カラフトルリシジミ	○				
32	ウラナミシジミ					⑪

註 足寄町立旭丘小中学校発行——環境を生かした理科指導——昆虫教材の活用と実践——の資料（上士幌＝小野決氏、陸別町＝笠井啓成氏、足

寄町＝湯浅裕氏・松本侑三氏、本別町＝松本尚志）を基礎に作成した。

①	1972.	5.	28	西仙美里	松本尚志
②	1970.	6.	11	利別川岸	松本尚志
③	1972.	6.	6	バッタの沢	松本尚志
④	1972.	7.	1	美栄	高木良則
⑤	1972.	7.	21	美栄	高木良則
⑥	1972.	6.	7	および26 美栄	高木良則
⑦	1973.	8.	11	帶富	松本尚志
⑧	1970.	5.	19	仙美里	松本尚志
⑨	1973.	7.	14	帶富	松本尚志
⑩	1972.	5.	20	美栄	高木良則
⑪	1972.	10.	7	帶富	円子紳一

## (3)

浦幌町に生息する蝶類の分布地、習性、出現期、採集地について

①分布地とその習性 ②出現期 ③採集地  
セセリチョウ科

1、チャマダラセセリ ①山地に近い明るい草原に見られる。ヒメジョオンなどの花を好む。②5月中旬～8月中旬。③福山・常豊・東山・帶富

2、ミヤマセセリ ①山地・低山地のカシワ・ミズナラの林の近くを活発に飛び、タンポポ・エゾタチツボスミレなどの花の上に見られる。②5月下旬～6月中旬。③福山・円山・東山

3、コキマダラセセリ ①浦幌では最も普通に見られるセセリチョウで草原に多い。②7月上旬～8月中旬。③帶富・常室・万年・住吉(市街)

4、コチャバネセセリ ①明るい草原。②6月下旬～7月中旬。③帶富・万年・千歳

5、オオチャバネセセリ ①平原。②7月下旬～8月中旬。

6、キバネセセリ ①低山地の林の附近で活発に花から花へと飛ぶ。学校などに飛び込んで来る。②7月下旬～8月下旬。③栄穂・福山・万年・帶富

## アゲハチョウ科

1、ウスバシロチョウ ①山地に近い傾斜した林道などにそって飛ぶ。②6月中旬～7月上旬。

③炭山・常豊・東山・帶富

2、ヒメウスバシロチョウ ①前種に同じ。②6月中旬～7月上旬。③東山・万年・千歳

3、(ナミ)アゲハ ①市街でも普通に見られるツツジの花などに集まる。②5月中旬～6月中旬。③福山・帶富・万年

4、キアゲハ ①明るい草原を好む、アザミ・ユリなどに集まることが多い。②6月上旬～8月中旬。③福山・常室・帶富・千歳

5、カラスアゲハ ①森林地帯に分布するが、ツツジ・アザミ・ユリなどに集まる。②6月上旬～9月下旬。③福山・常室・帶富・千歳

6、ミヤマカラスアゲハ ①山林に多いが、集団で湿地で吸水するのが見られる。②5月中旬～8月中旬。③福山・常室・帶富

## シロチョウ科

1、ヒメシロチョウ ①風のない山林や草原を低く、弱々しく飛ぶ。②5月下旬～7月中旬。③常豊・千歳

2、エゾヒメシロチョウ ①前種に同じだがかなり多産する。②5月中旬～8月中旬。

3、モンキチョウ ①草原・市街地に普通に見られる。②5月下旬～8月下旬。③常豊・帶富・万年・住吉・光南団地

4、モンチロチョウ ①低山地および草原。②5月下旬～10月上旬。③常室・帶富・市街・万年

5、スジグロシロチョウ ①低山地および草原②5月下旬～8月上旬。③常豊・帶富・万年

6、エゾスジグロシロチョウ ①町内に普通に分布する。②5月下旬～10月上旬。③福山・帶富・市街・万年

7、ツマキチョウ ①明るい草原を水平に飛ぶが局地的に産するのみ。②5月下旬～6月下旬。③福山・常豊・帶富・千歳

8、エゾシロチョウ ①低山地の峠・林道などをゆるやかに飛ぶ。千歳・稻穂などには、かなり多く見られる日がある。②6月中旬～7月中旬。③川上・栄穂・万年・稻穂

## ジャノメチョウ科

1'、ヒメウラナミジャノメ ①山地に近い草原に出現する。②6月上旬～7月上旬。③常豊・帶富・万年

2、ジャノメチョウ ①低山地の疎林・明るい草原を低く飛ぶ。アザミの花などに集まる。②6月下旬～7月下旬。③帶富・万年

3、ウラジャノメ ①低山地の林の間をゆるやかに飛ぶ。②6月下旬～7月下旬。③常室・帶富・万年

4、シロオビヒメヒカゲ ①疎林・草原を弱々しく波のように高さをかえて飛ぶ。タンポポ・ヒ

メジョオンなどにとまって蜜を吸う。②6月上旬～7月上旬。③常豊・東山・万年

5、クロヒカゲ ①山林中をすばやく飛び、樹液に集まることが多い。②6月下旬～8月中旬。

③常室・帶富・千歳・万年

6、オオヒカゲ ①林の中の湿原を好む。日中あまり活動せず、朝と夕方に飛ぶことが多い。②7月上旬～8月中旬。③常豊・帶富・万年

7、ヤマキマダラヒカゲ ①山林に近く分布。②6月下旬～7月上旬。③万年・千歳・帶富

8、サトキマダラヒカゲ ①人家近くまで出現する。②6月下旬～7月上旬。③常豊・万年・稻穂

#### タテハチョウ科

1、コムラサキ ①山麓部の路上、川岸などにおりて休むことがある。ヤナギ・ニレなどの樹液を求めて活発に飛ぶ。花の蜜はほとんど吸わない。②7月下旬～8月中旬。③福山・常豊・帶富

2、イチモンジチョウ ①明るい山林に近い草原に見られる。サビタ・ヤマアジサイなどの花に集まる。②常豊・帶富・万年

3、コミスジ ①山に近い草原に多い。②5月下旬～8月中旬。③常豊・帶富・千歳

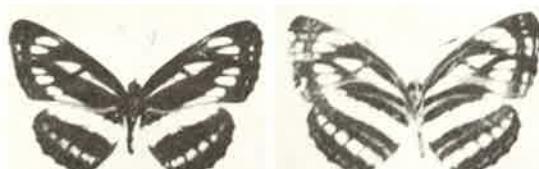


表 裏

4、ミスジチョウ ①林道などで見られる。②8月中旬。③福山

5、フタスジチョウ ①明るい疎林附近に多く、クサフジ・ホサキノシモツなどに集まる。③常豊・帶富・住吉・千歳

6、サカハチチョウ ①エゾイラクサの群落に集まる。②5月中旬～8月中旬。③常豊・帶富・福山

7、アカマダラ ①草地であれば普通に見られる。②5月下旬～8月上旬。③常室・常豊・帶富・万年

8、シータテハ ①平地よりは山麓部に多い。②6月上旬～8月上旬。③福山・常室

9、エルタテハ ①山地の林道・樹幹・人家の

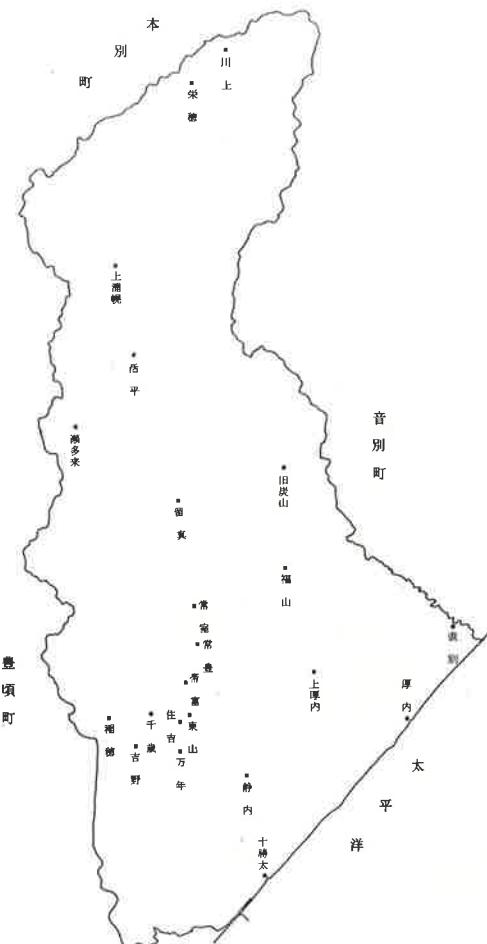


Fig. 1 浦幌町蝶類関係地名図

軒先などにも出現する。②4月下旬～9月上旬。

③活平・福山・帶富・万年・住吉

10、アカタテハ ①人家の近くや山麓に見られる。活発に飛ぶ。②8月上旬～10月下旬。③常豊・万年

11、ヒメアカタテハ ①平地の草原を飛びコスモスの花などに集まる。②8月中旬～10月上旬。③常豊・帶富・万年・千歳

12、キベリタテハ ①林道やとうきび畑の上を速く活発に飛ぶ。②6月上旬～9月上旬。③福山・円山・帶富

13、クジャクチョウ ①全町にわたって普通に見られる。成体で越冬するので出現期間が長い。②4月中旬～10月上旬。③常室・帶富・東山・万年・住吉・十勝太

14、ルリタテハ ①山林の道路に出現する4、5月頃、残雪のあるところで追いはらつても同じ

場所に舞い戻るのが見られる。②6月中旬～8月  
中旬。③常室・東山・万年

15、ヒメヒオドシ ①山麓・平地共に見られる  
②7月上旬～下旬。③常室・東山・万年

16、ウラギンヒョウモン ①山麓の明るい草原  
で、アザミの花によく集まる。②6月下旬～8月  
中旬。③常豊・帶富・万年・稻穂

17、ギンボシヒョウモン ①明るい草原で花か  
ら花へと飛ぶ。②6月下旬～8月中旬。③帶富・  
東山・万年・稻穂



18、オオウラギンスジヒョウモン ①明るい草  
原や川に近い林道などを飛ぶ。②8月上旬。③常  
豊・千歳

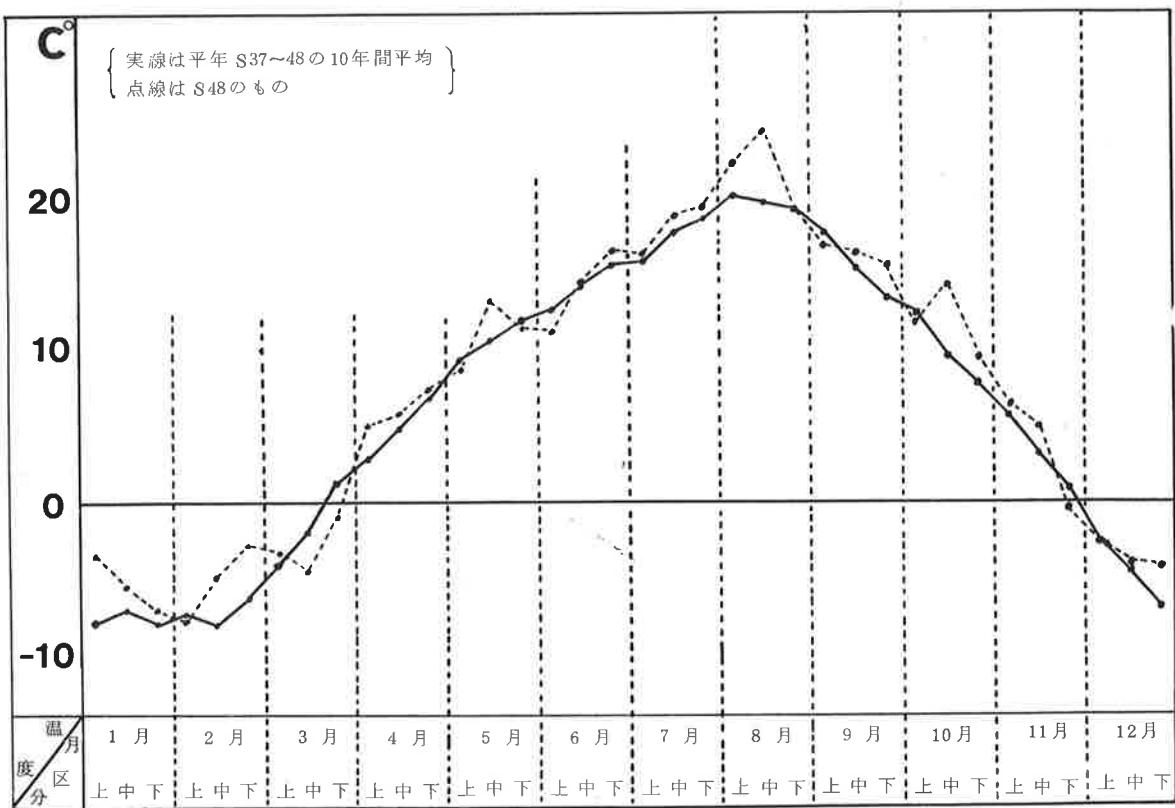


Fig. 2 浦幌町の平均気温

19、ウラギンスジヒョウモン ①明るい草原・河原・堤防などに住み、アザミ類の花に集まる。②8月上旬～中旬。③常富・万年・稻穂



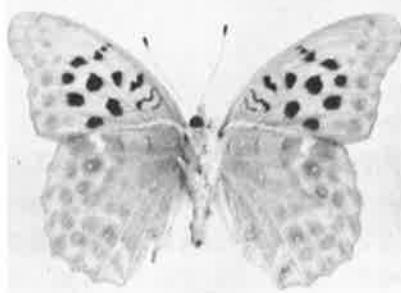
20、ミドリヒョウモン ①山麓の疎林に普通に見られる。②8月上旬～中旬。③福山・常室・帶富・万年



21、メスグロヒョウモン ①山際の平地に出現する。②8月上旬。③常富



22、クモガタヒョウモン ①山麓の疎林に多い②6月中旬～10月上旬。③常室・帶富・東山・稻穂



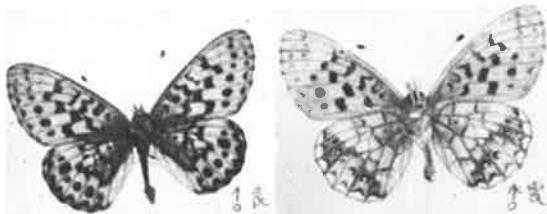
23、ヒョウモンチョウ 1964. 7. 2 常豊で阿部宏氏が採集。



24、コヒョウモン 1964. 7. 20 常豊で阿部宏氏が採集。



25、カラフトヒョウモン ①低山地の草原・森林附近の草地をかなりの速さで飛ぶ。②5月下旬～6月下旬。③福山・常豊・万年



## 26. ヒメカラフトヒョウモン(ホソバヒョウモン)

①前種に同じ。②6月初旬。③常豊



## シジミチョウ科

1、アカシジミ ①低山および平地の落葉広葉樹林に住み、イボタ・ハシドイなどを訪れる。昼は樹上などに静止し、日没前に活発に飛び廻る。②7月中旬～8月上旬。③常豊・帯富・千歳・厚内

2、ウラキンシジミ 1973. 8. 11 帯富で松本が採集。

3、ウラゴマダラシジミ ①市街でもイボタがある場所には多産する。②6月下旬～8月中旬。③常室・帯富・万年・住吉

4、オナガシジミ ①山麓のクルミ林で群を作って飛ぶ。②7月中旬。③常豊

5、ミズイロオナガシジミ ①カシワ林に住み昼間は樹上に静止し、夕刻活発に飛ぶ。②7月中旬～下旬。③常豊・帯富

6、ウラミスジシジミ ①カシワ林に住み、炎天火では活動しない。②7月中旬。③常室

7、ミドリシジミ ①湿地のハンノキ林に出現する。②7月上旬。③常室

8、メスアカミドリシジミ ①山地の落葉広葉樹林に多い。渓流沿いにも出現する。午前中が活発である。②7月下旬。③常室

9、オオミドリシジミ ①カシワ林に発生。♂は山頂に集まる習性がある。②7月下旬～8月上旬。③常室・帯富・万年

10、ジョウザンミドリシジミ ①山麓部のミズナラ林に出現する。朝7時から9時頃までが活動時間であることが多い。②7月上旬～9月中旬。

## ③常室・千歳

11、エゾミドリシジミ ①前種と同じミズナラ林に出現するが、活動時間は昼すぎから夕方にかけて。②7月中旬。③常室

12、ハヤシミドリシジミ ①平地のカシワ林にのみ生息する。夕方活発に活動する。②8月中旬。③福山

13、カラスシジミ ①明るい疎林の花に集まる。町内では多産。②7月上旬～8月中旬。③福山・常豊・帯富・東山・万年

14、エゾリンゴシジミ 浦幌では少ない。1973. 7. 14 帯富で松本が採集した。

15、コツバメ ①低山地の草原を飛ぶ。敏速であるがすぐとまる。②5月上旬～中旬。③常室・帯富・千歳・稻穂

16、トラフシジミ ①明るい山林近くの草原に分布、敏速でよく花にとまる。②6月下旬～7月上旬。③常室・千歳

17、ベニシジミ ①明るい草原に常に見られる。敏速である。浦幌でも2回発生するらしい。③常室・帯富・万年

18、ヒメシジミ ①明るい草原・伐採地などに多産する。弱々しく飛ぶ。②7月上旬～下旬。③常豊・帯富・万年

19、カバイロシジミ ①明かるい草原をゆるやかに飛びクサフジの蜜を吸う。②6月中旬。③常豊・帯富・万年

20、ゴマシジミ ①明るい草原や泥炭地に出現する。②6月上旬～8月上旬。③万年

21、ルリシジミ ①山林近くを活発に飛ぶ。湿地に群がることがある。②5月上旬～8月上旬。③常豊・帯富・万年

22、ツバメシジミ ①明るい草原を低く飛ぶ。浦幌でも多産。②5月中旬～8月下旬。③福山・常豊・帯富・万年

23、ウラナミシジミ 迷蝶。1972. 10. 7 帯富で円子紳一氏が採集。

## (4)

僅か2年の調査をもとに書いて上げるのは、心苦しいし、市街地を中心にしてるので、厚内・吉野・上浦幌・十勝太が残された。私がまとめたのだが、円子紳一氏から多大の御教示をいただいたことを感謝している。種について云えば、

エゾスジグロシロチョウとスジグロシロチョウ、エゾヒメシロチョウとヒメシロチョウ、ウスバシロチョウとヒメウスバシロチョウ、ミドリシジミ類、ヒョウモンチョウの調査が不完全で今後の課題となっているし、食草（樹）との関係も明らかにしたい。円子氏との共同作業にして行きたいと思っている。

（浦幌町立浦幌中学校教諭）

### 参考文献

- ①白水 隆『原色図鑑日本の蝶』
- ②白水 隆『標準原色図鑑全集Ⅰ 蝶・蛾』
- ③高橋 昭・他『カラー自然ガイド日本の蝶Ⅰ』
- ④高橋 昭・他『カラー自然ガイド日本の蝶Ⅱ』
- ⑤藤岡知夫『図説日本の蝶』
- ⑥横山光夫『原色日本蝶類図鑑』
- ⑦藤岡知夫・他『カラー続日本の蝶』
- ⑧藤岡知夫・他『カラー日本の蝶』
- ⑨十勝教育研究所『十勝学習資料集』No.1
- ⑩足寄町立旭丘小中学校『環境を生かした理科指導——昆虫教材の活用と実践——』
- ⑪円子紳一「浦幌町の蝶類レポートⅠ」(『浦幌町郷土博物館報告』2) 1973
- ⑫田中 肇『カラー自然ガイド 花と昆虫』
- ⑬朝日新聞社『北方植物園』
- ⑭本田正次・他『原色植物百科図鑑』

### 註

註1 1969～1971年に岡山県下で亜種が発見されている。

註2 本道でも、札幌を中心に生息していた。テングチョウは絶滅し、札幌市八軒山附近に残存していたオオムラサキも、近年その姿を見ることがないという。乱獲と食樹であるエゾエノキの減少によるものであろう。十勝においても上士幌および音更に知られるカラフトルリシジミが、道路建設にともなう植生の変化から絶滅の恐れがあるとされている。

註3 石狩低地帯はクリ（ブナ科）・トチノキ（トチノキ科）等の北限であり、黒松内低地帯はブナ（ブナ科）の北限として知られている。

註4 円子紳一氏が1972年10月17日に帶富で採集されたもの、釧路地方でも記録がある。迷蝶とは本来その地方に生息して発生をくりかえすものではなく、たまたま、その地方に移動してきたか、一回発生して死滅する蝶をいう。極めて珍らしい例として1972年来、利尻島で発見されたアサギマダラがある。この蝶は本来、南方系の蝶で、北海道でも渡島半島に見られるのみだが、離島である利尻になぜ見られるのかわからない。

## 浦幌新吉野台細石器遺跡出土の遺物

後藤秀彦・佐藤訓敏

### I 遺跡の位置と地形 (Map 1-7)

浦幌新吉野台細石器遺跡は北海道十勝郡浦幌町字共栄 127・128番地に所在する。遺跡は吉野台地の南端近く東側の標高15m、比高5mのところにあり、東側眼下には浦幌川に注ぐ小溪ピパウシリ川が北から南へ流れている。遺跡は現在造林地となっているが土地所有者飯山伝平氏によって丁寧な保存施策が行なわれている。吉野台地上には、Map 1 に示したように縄文早期に比定しうる遺跡が軒を並べ、台地全体がさながら一大遺跡のようであり、この他にも2～3のこの時期の遺跡の存在が知られている。

(後藤)

### II 出土した土器について (Fig. 1、Fig. 2)

出土した土器片の数は多いものではない。しかしバラエティーに富んでおりその諸特徴から概ね次の3群に分類が可能であると思われる。

#### 第I群 (Fig. 1-1～5)

貝殻条痕文および無文の土器群である。これらは各々の特徴から2類に分類できる。

第1類 貝殻条痕文が横位に施文されたグループ Fig. 1-1～3 がこれにあたる。1は貝殻条痕文を表裏にもつが特に裏面に顕著である。口縁部外縁はヘラ状のものでそいだように口唇は尖がり気味である。3は2にくらべ条痕文が深く施されて